

男女共同参画に関するアンケート 報告書

【概要版】



京都市

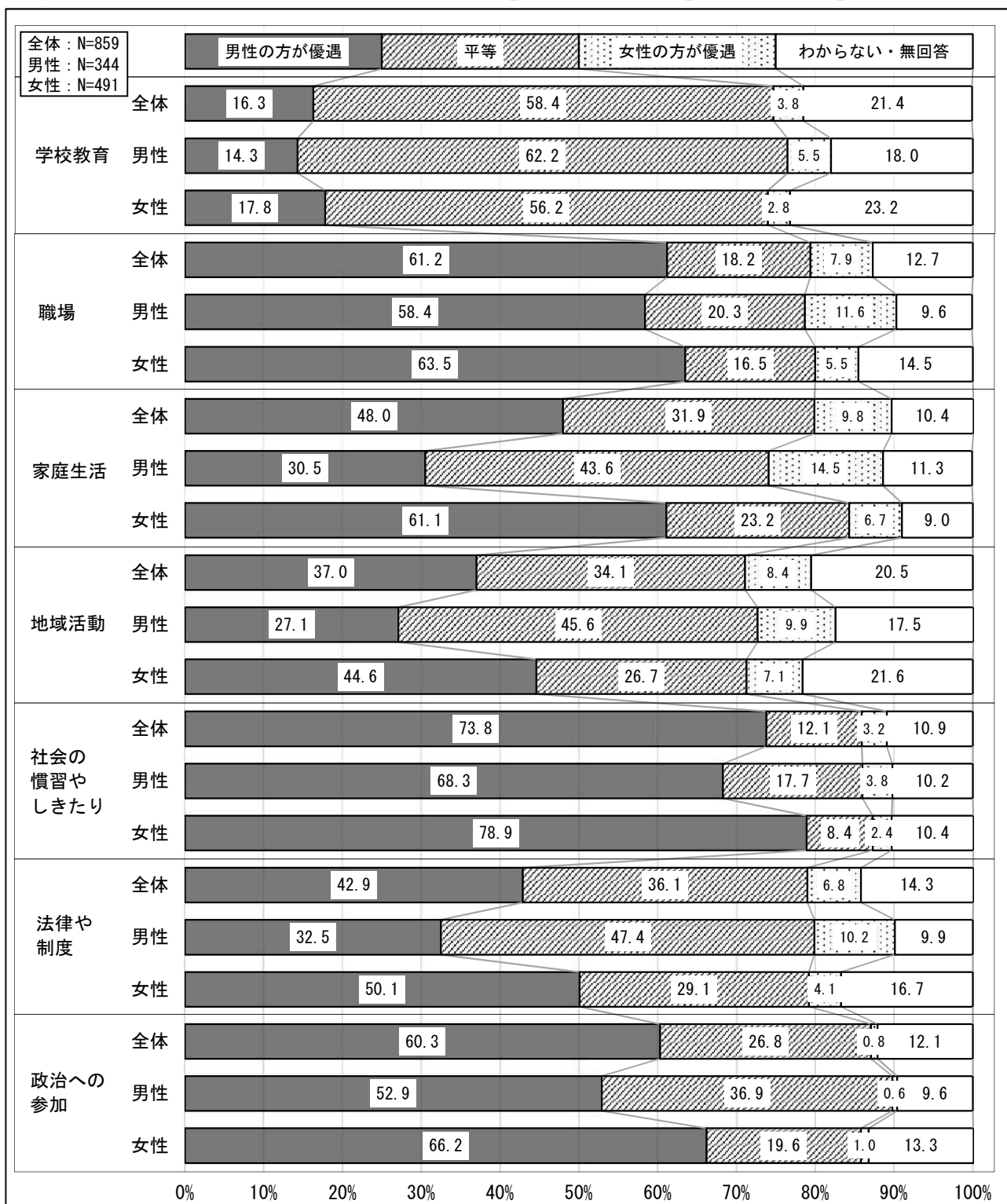
令和2年3月

1 男女共同参画について

学校教育，職場，家庭生活など，各分野における男女の平等感

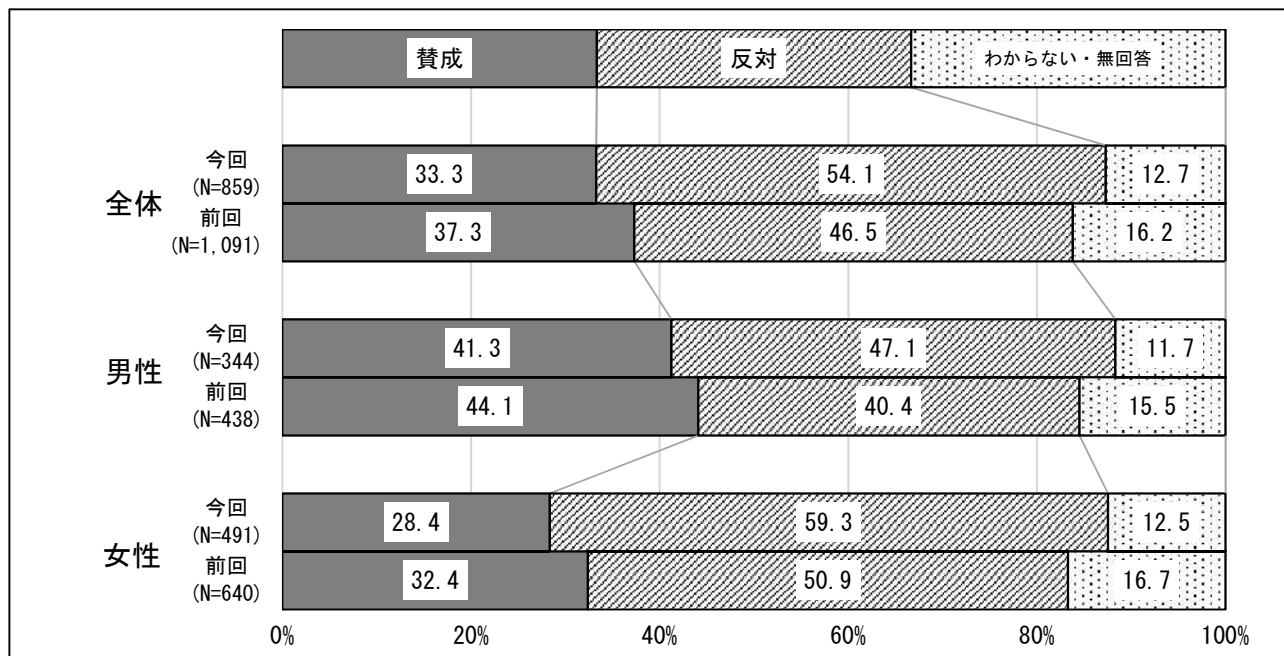
◆ 最も男性が優遇されていると感じられているのは，「社会の慣習やしきたり」

◆ 男女の意識の差が大きいのは，「家庭生活」，「法律や制度」，「地域活動」



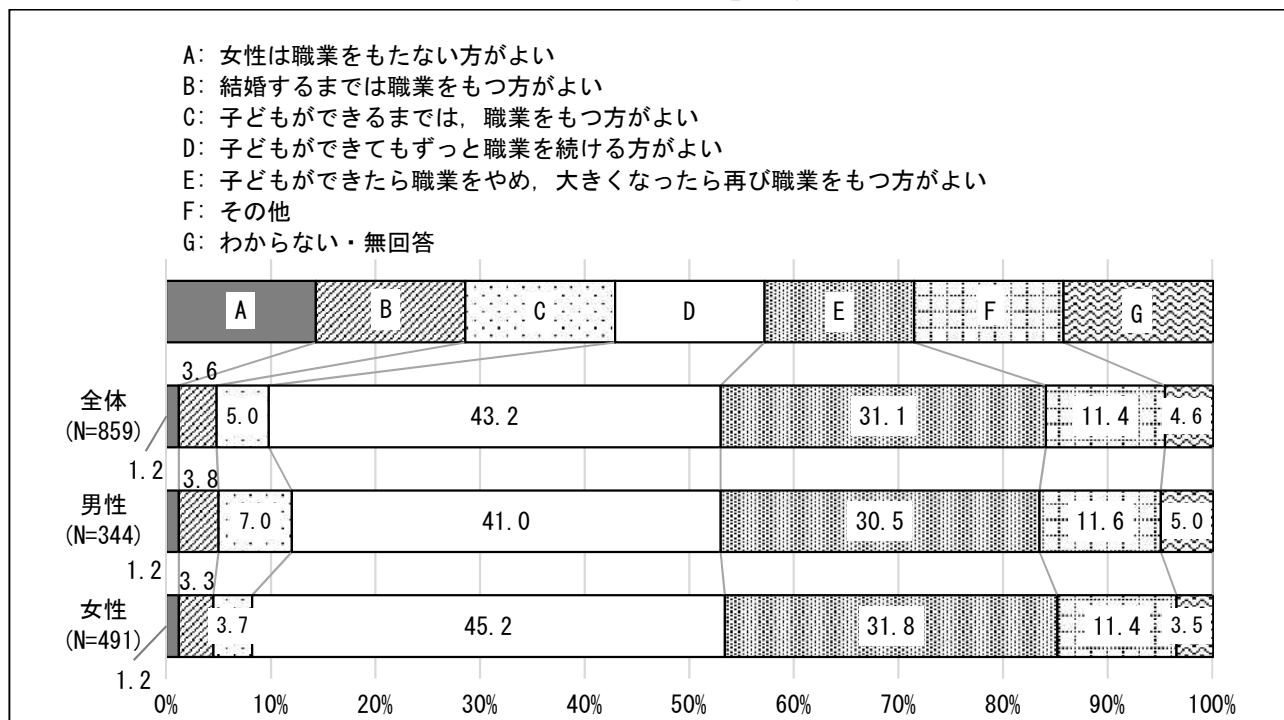
「男は仕事，女は家事・育児」という考え方

- ◆ 「反対」が過半数で，「賛成」は約３割である。
- ◆ 「反対」が男女ともに前回より増加している。

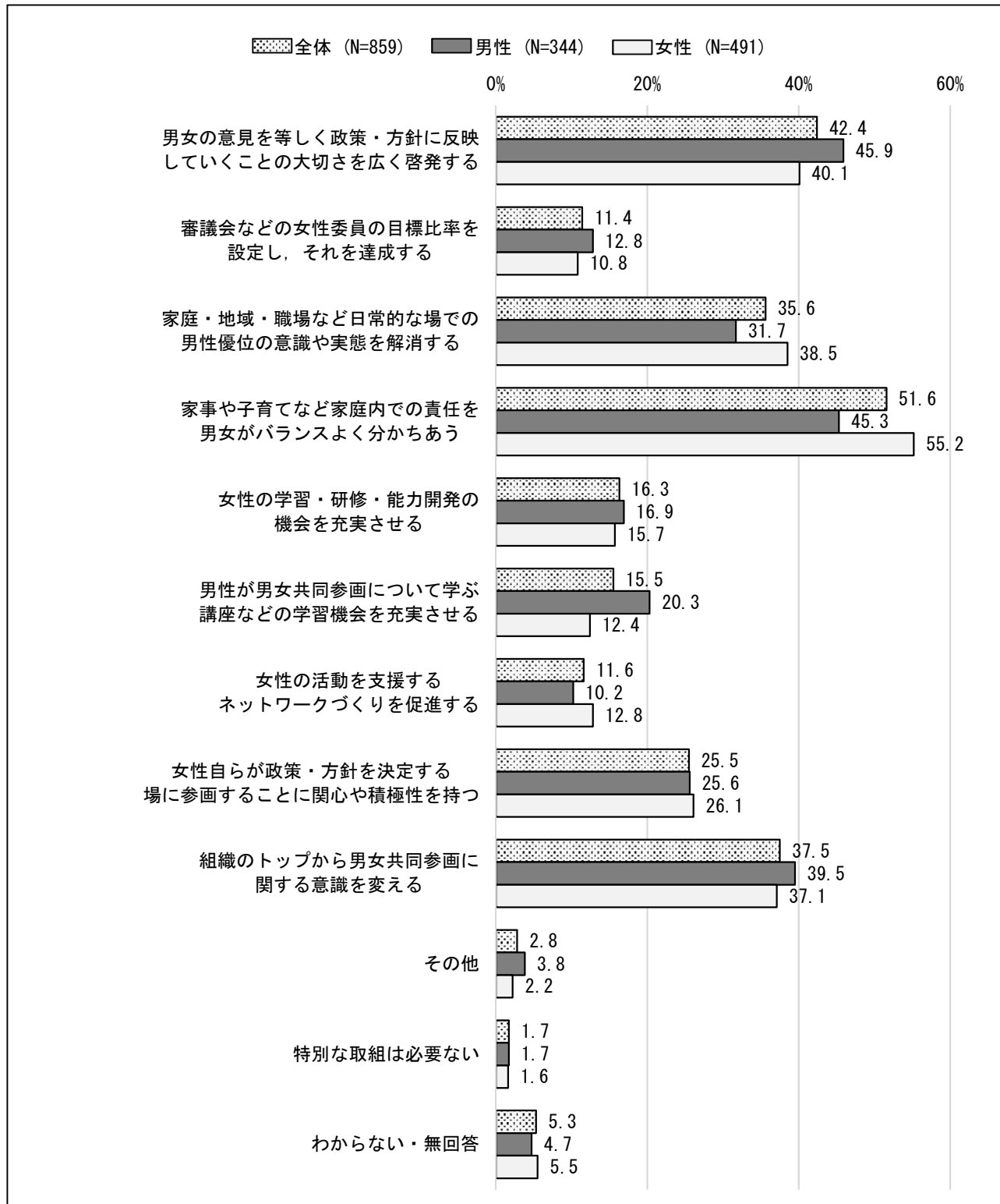


一般的に女性が職業をもつことについて

- ◆ 「子どもができてみずっと職業をもつ方がよい」が男女ともに最も多い。



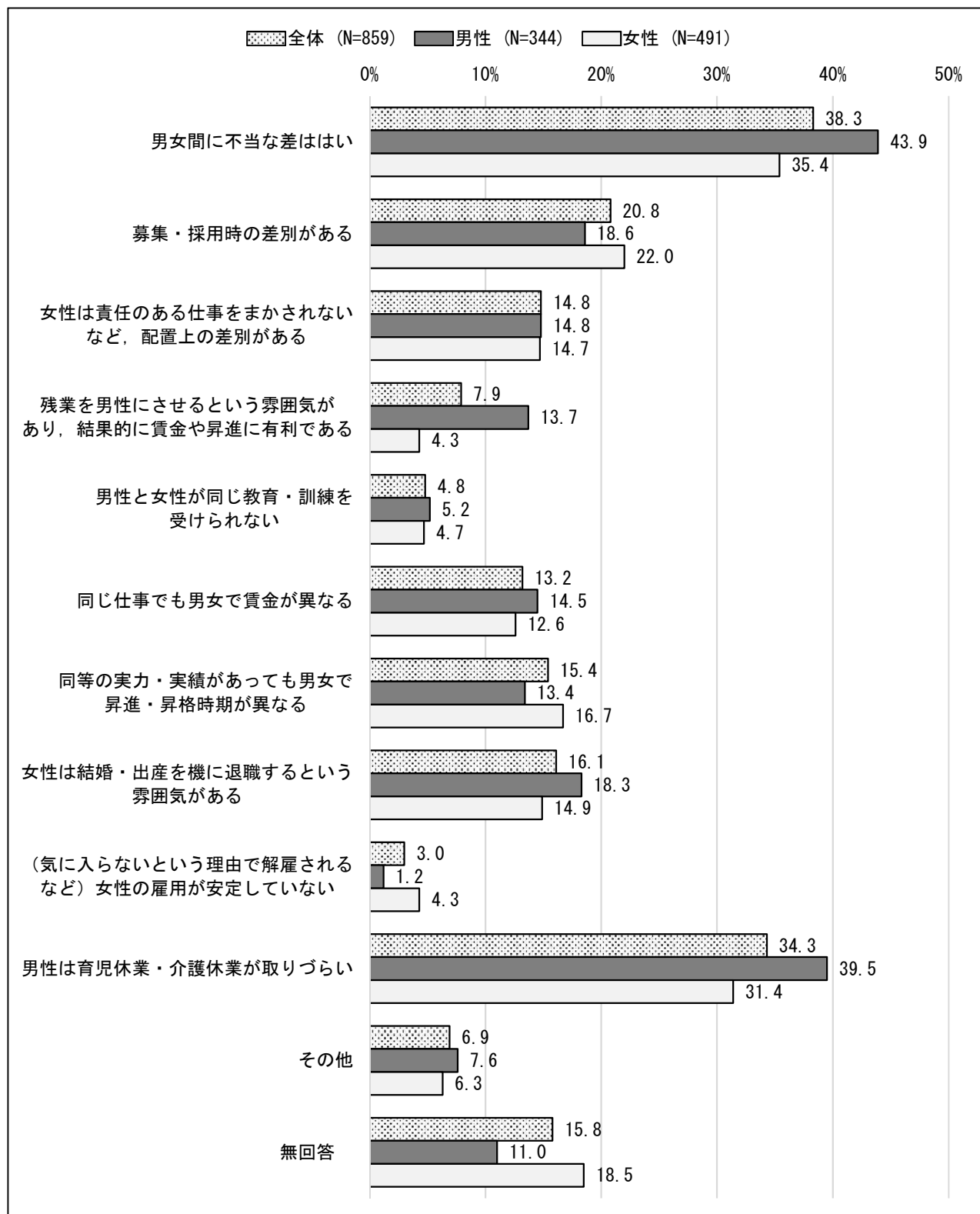
◆ 「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が最も多い。



職場での待遇の男女差

<複数回答>

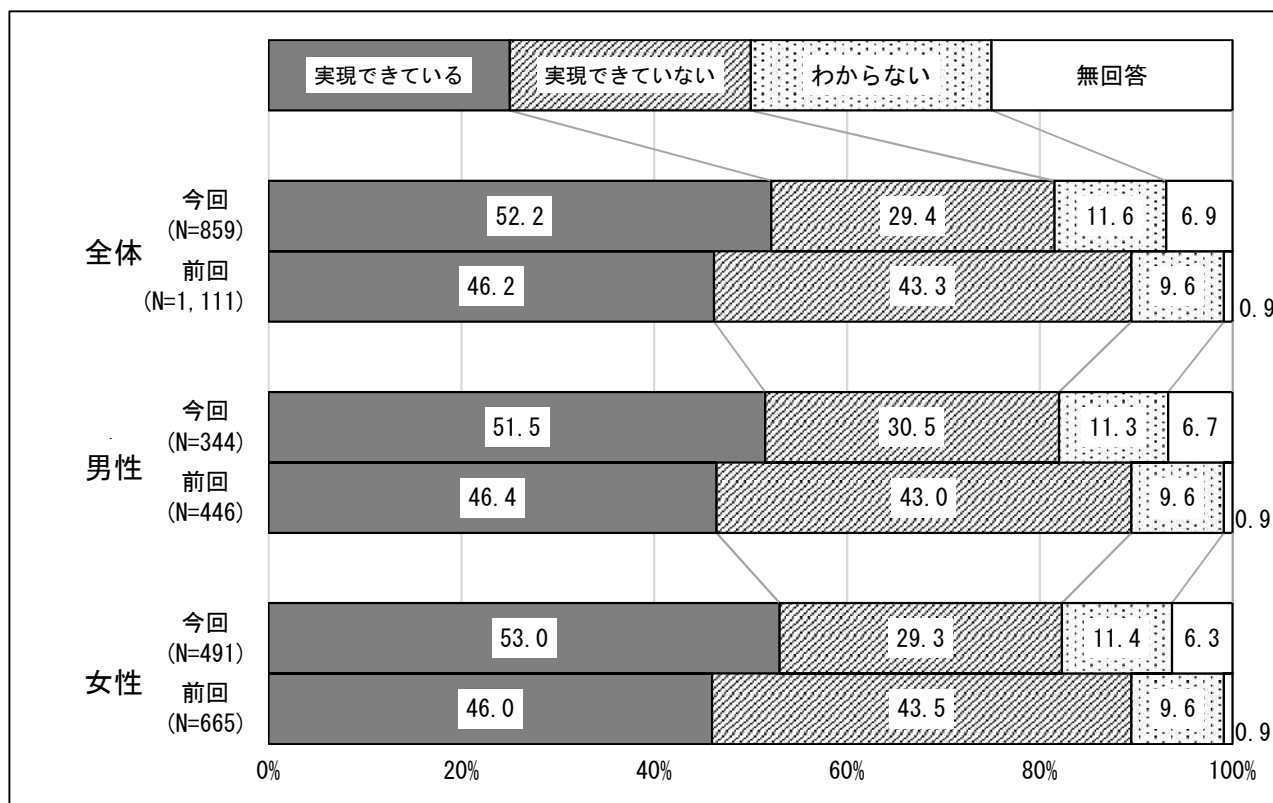
- ◆ 不当な差があるとした項目では、「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」が最も多い。



2 「真のワーク・ライフ・バランス」について

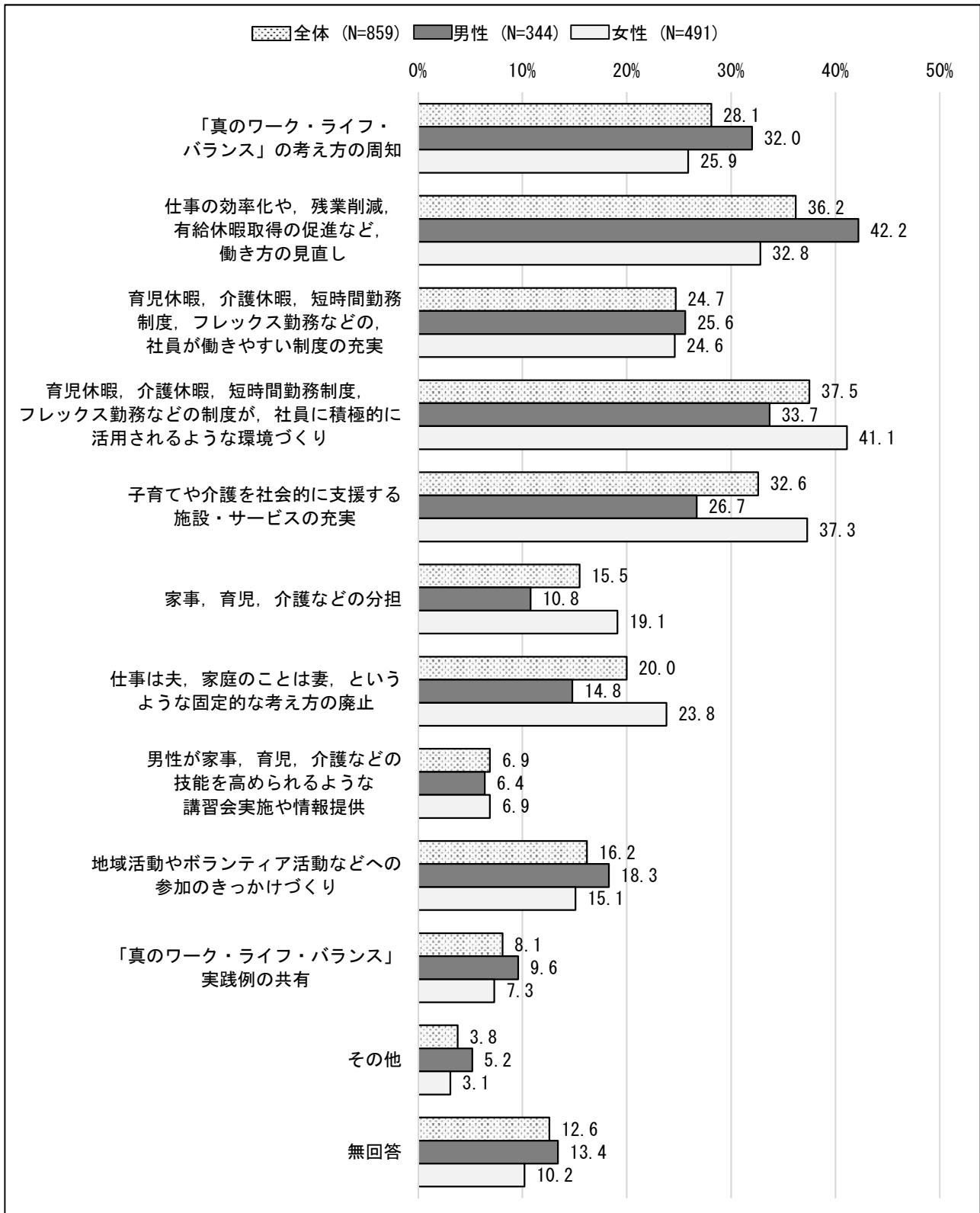
「真のワーク・ライフ・バランス」の実現度

◆ 過半数の人が「真のワーク・ライフ・バランス」を実現できている。



※ 真のワーク・ライフ・バランス……京都市では、仕事と、家庭生活などの私生活だけでなく、町内会の活動やボランティア活動などの「地域活動や社会貢献」も含めて、いきいきとした暮らしを送ることを“真のワーク・ライフ・バランス”と位置付けています。

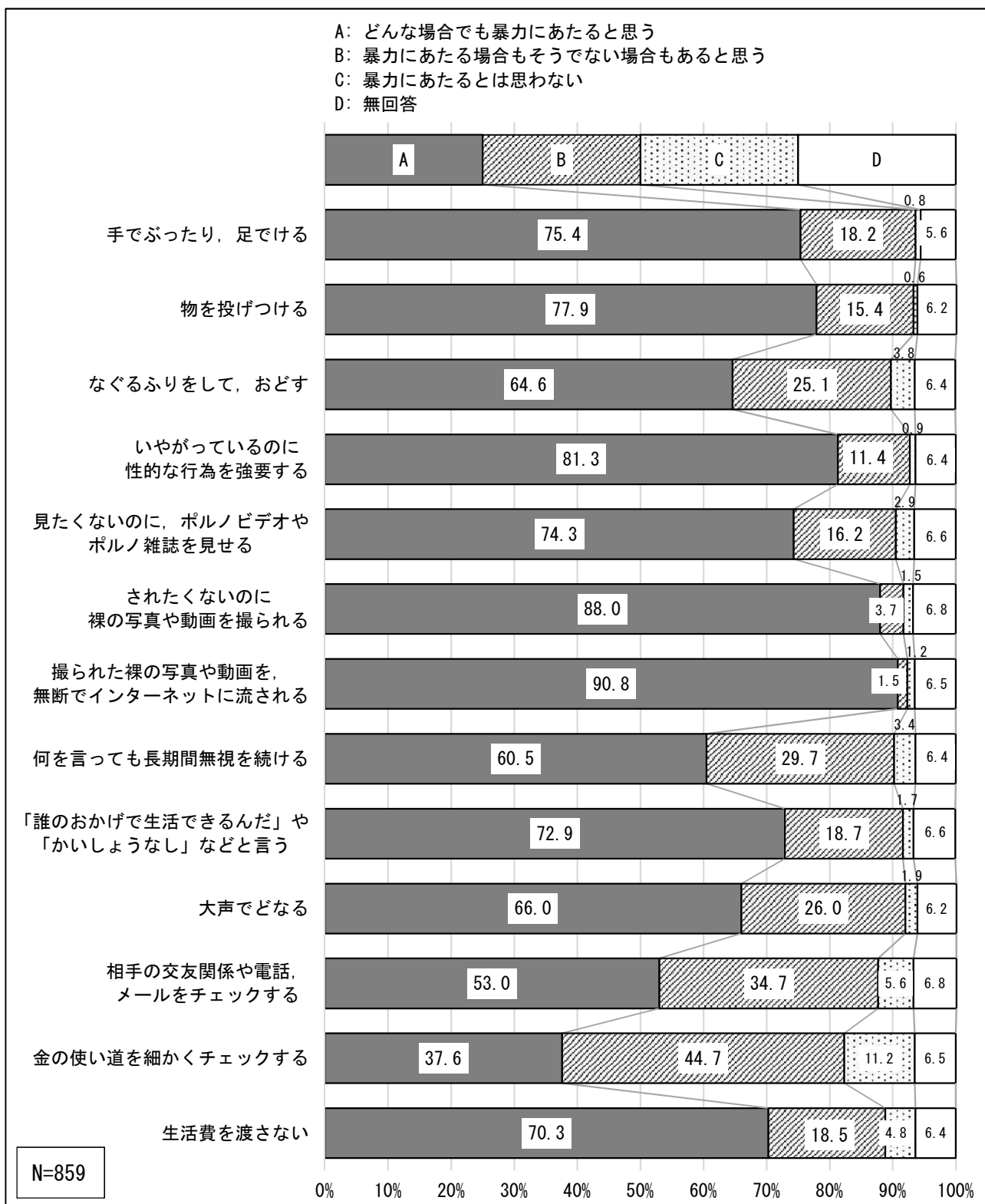
- ◆ 「育児休暇、介護休暇、短時間勤務制度、フレックス勤務などの制度が、社員に積極的に活用されるような環境づくり」と答えた人が最も多い。



3 配偶者・パートナーからの暴力について

どのような行為を暴力と思うか

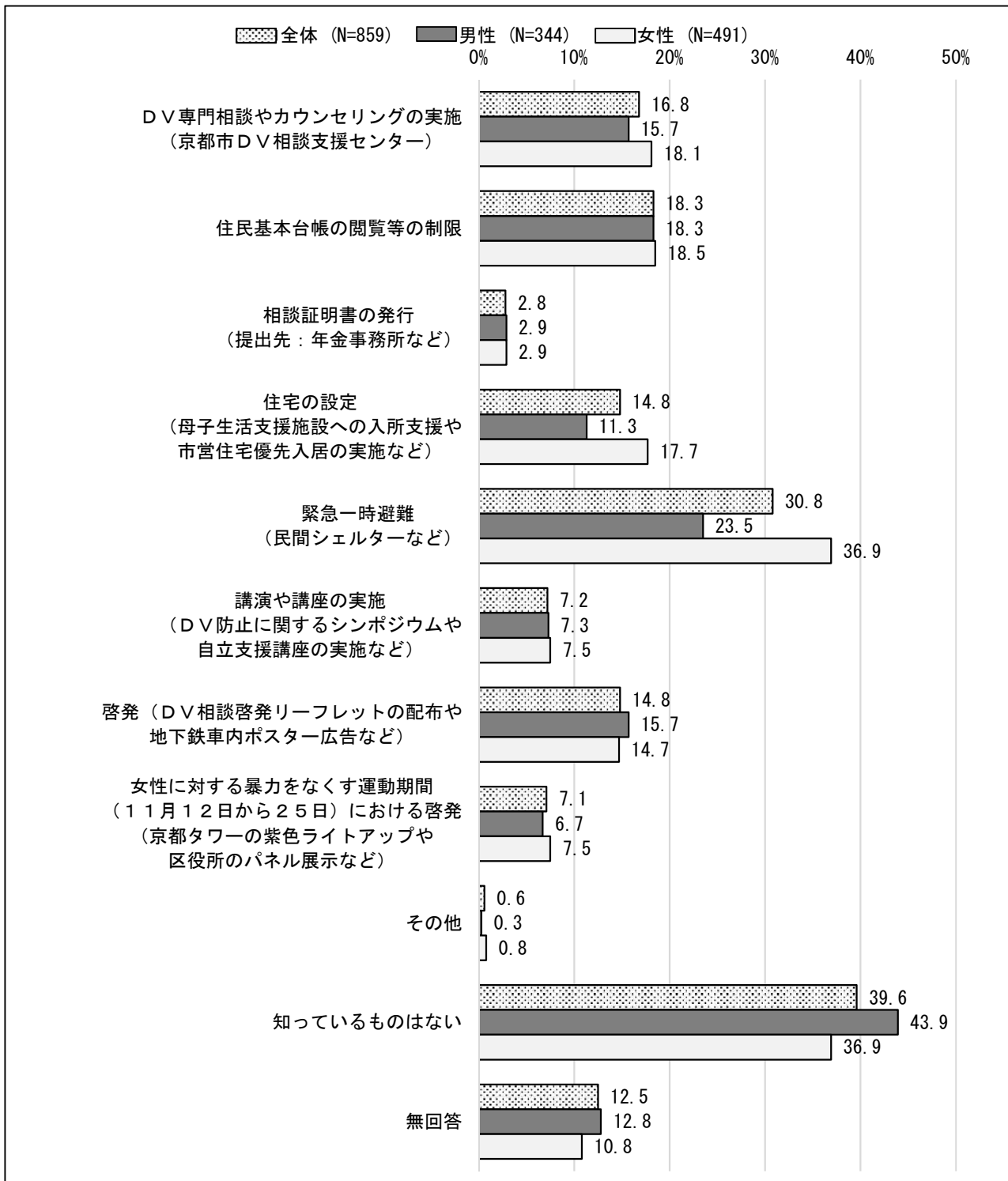
◆ ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。



施策の認知度

<複数回答>

- ◆ 「知っているものはない」が最も多い。
- ◆ 知っている施策では「緊急一時避難（民間シェルターなど）」が最も多く、次いで、「住民基本台帳の閲覧等の制限」、「DV専門相談やカウンセリングの実施（京都市DV相談支援センター）」となっている。



調査の概要

調査対象：市内在住の満 18 歳以上の男女 3,000 人

抽出方法：住民基本台帳から，行政区別・年齢層別・性別人口割合に応じた無作為抽出

調査方法：郵送配布，郵送・インターネットのいずれかで回答

調査期間：令和元年 12 月 3 日～12 月 19 日

有効回答数：859 人（有効回答率：28.6%）

（内訳）男性 344 人，女性 491 人，答えたくない 13 人，性別不明 11 人

京都市文化市民局共生社会推進室

〒604-8101

京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町 65

京都朝日ビル 8 階

TEL (075) 222-3091／FAX (075) 366-0139

京都市印刷物 第 3 1 3 2 8 7 号

この印刷物は，不要になりましたら，「雑がみ」としてリサイクルできます。コミュニティ回収や古紙回収などにお出してください。

